



恵まれた練習環境と

町民の熱いエール――

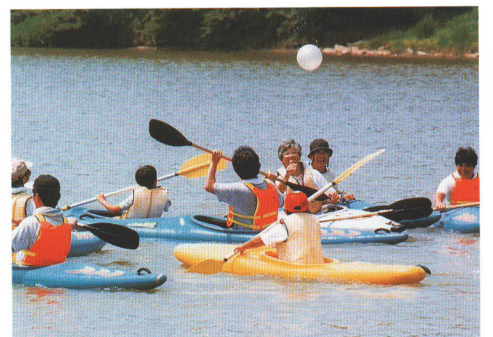
『カヌー王国』の原動力がここにある。



“ふくしま国体”開催を
きっかけに、
カヌーを軸にした新たな
町づくりの風が吹く。

平成7年の第50回国民体育大会（ふくしま国体）夏季大会で、カヌー競技会の会場地となった東和町。福島県は史上初の男女二連覇を達成し、町からはワイルドウォーター競技に穂任孝選手（町職員）、少年女子カヤックシングル200m、500mに菅野さなえ選手（安達高校出身）が出場して、それぞれ優勝を果たしています。その後も福島県は、平成12年のとやま国体で男女総合3位入賞、女子は7種目で金メダルを獲得するなど『カヌー王国』としての地位を確立してきました。

現在、町内には奇岩怪石の連なる島山溪谷の渓流を生かしたスラローム・ワイルドウォーターのコースと、阿武隈漕艇場に直線1,000mのレーシングコースが整備されています。5月から10月にかけてのシーズン中には、毎週のように



各種大会や教室が開かれ、中でも6月の「全日本あぶくまカップ大会」は、全国のトップクラスの選手が出場、「ジャパンカップ」は、世界選手権・オリンピック参加選手の選考の場ともなっています。また、10月に行われる「全日本阿武隈ウォーター大会」は、ふくしま国体の翌年からポスト国体として開催されている大会で、全国からジュニアの選手が出場して行われます。

町では、引き続き選手の育成に力を注いでいるほか、県カヌー協会が主催しての初心者教室や、ふくしま遊学での体験受け入れを行い、カヌー人口のすそ野を広げる活動も行っています。東和町の恵まれた自然環境がもたらした新しい風・カヌー。もつと多くの人たちに親しみ・愛されるスポーツになるようにと、みんなの熱いエールが聞こえてきます。